



けやき

宇都宮市立上河内中学校

学校だより 第5号

発行責任者 校長 西原 良一

この夏、貴重な体験をしてきました

38日間の長い夏休みも終わり、8月27日から学校が始まりました。夏休みの間、3年生は高校の1日体験学習があり、好むと好まざるとにかかわらず、いよいよ進学に向けて本格的な取組が始まりました。また、2年生は部活動（運動部）において、引退した3年生に代わり中心となって活動に取り組んでいます。

生徒一人一人に、いろいろな夏休みの過ごし方があったことと思いますが、この夏休みに、学校を代表して貴重な体験をしてきた生徒もいます。今回はその生徒に感想を書いてもらったものを紹介します。

◆ 「祥豊苑」(特別養護老人ホーム)を訪問して

祥豊苑では、様々な体験をしてきました。とろみをつけた飲み物の試飲、車いす体験、そして、祥豊苑を利用している方々との交流。普段の学校生活では、なかなか味わうことのできない貴重な体験をさせていただきました。

車いす体験をして感じたことが一つあります。それは車いすを押している人よりも座っている人の方が怖いということです。座っている人は楽と思う人がいると思いますが、実際に体験してみると、少しの段差でもものすごい恐怖です。また目を閉じてみと開けてるときの倍の速さを感じます。この体験から私は車いすを押すときにはコミュニケーションをしっかりと不安や恐怖を少しでも取り除けられるようにしようと思いました。

利用している方々とは、シャボン玉や将棋、風船や折り紙と様々な交流ができました。将棋は白熱した戦いになっていました。折り紙はいろいろな折り方を教えていただきました。風船やシャボン玉は皆さんお元気で、私たちがパワーをもらいました。そしてすべての交流で利用している方、皆様が楽しんでいらっしゃいました。貴重な体験をさせていただいた祥豊苑の皆様ありがとうございました。



A・Wさん

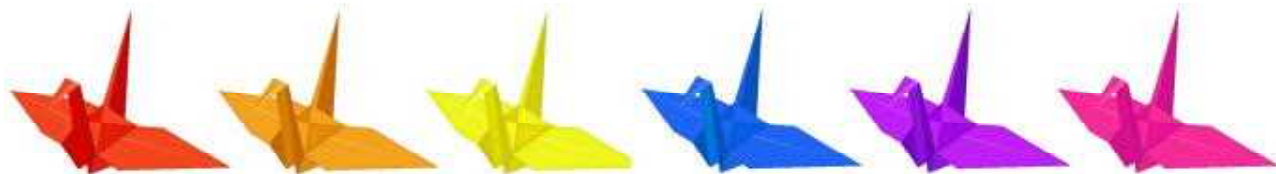


少年の主張、宇都宮ジュニア未来議会、平和親善大使に関する内容は、10月26日(土)に行われる本校の文化祭において報告されることになっていますので、ぜひ、ご来校の上、発表をお聞きください。

◆ 少年の主張（河宇大会）に出場して

私は「少年の主張」に出場して感じたことがたくさんありました。特に私が感じたことは、一人一人がいろいろなことを考えていて、それを上手く相手に伝えようとしていたことです。だから、私はとても緊張しました。でも、私は発表をしていく内に楽しくなっていました。なぜなら、自分の伝えたいことがしっかりと伝えられていると思ったからです。

私はこのような経験ができたことは、とても素晴らしいことだと思います。だから、私はこの経験が無駄にせず、学校生活やいろいろな場面で活用していきたいです。 Y・U さん



◆ 平和親善大使として広島での平和記念式典に参加して

私は広島に行くまで「戦争は恐ろしい」ということしか分からずにいました。

平和記念資料館に行ったとき、私はたくさんの展示物を見ることができました。その中で一番印象に残ったのは「死の斑点」という題名の一枚の写真でした。写真の内容は「死の斑点が表れた者は必ず死が待っている。」というものです。私はそれを見た瞬間「ソクッ」としました。原爆という恐ろしいものから逃れたというのに、その影響で自分は死んでしまうという恐怖が、その一枚の写真に表れていました。私はこんな恐怖を今後二度と人類に体験させてはならないと思いました。 E・W さん



◆ うつのみやジュニア未来議会に参加して

「ジュニア未来議会に参加してみませんか？」と先生から誘いがあった時、私はとてもうれしくなり、参加を決意しました。しかし、参加を決意した後に私の心の中で「このジュニア未来議会に来る中高生みんなが市政への意識が高い人たちなのではないのか？私はジュニア未来議会を無事に終えることができるのか？」という不安が大きくなっていきました。

しかし、当日行ってみると意外にもフレンドリーな人が多く、初日すぐにたくさんの友達ができたととてもうれしかったです。本番の議会を行う日は、緊張はしましたが、しっかりと自分の役目をこなすことができました。このジュニア未来議会は、私にとって、とてもいい経験になり、宇都宮市の魅力についてたくさん知ることができました。



S・S さん